

HopStepJump

4

授業づくり①

<https://toyono-jinjikyoo.com/>

— 学習指導要領と授業について —

第3回初任者研修は、能勢町教育委員会学校教育課の辻課長より「子どもの力を引き出す授業づくり」をテーマに演習を交えてご講義いただきました。講義では、子どもたちをしっかりと見取り、関係をつくり、力を引き出していくこと、そのための声かけの方法や、具体物を用いて子どもたちに意欲をもたせること等、授業づくりの心構えに重点を置きお話いただきました。後半には、指導案の書き方についても、ポイントをしぼりご教授いただき、短い時間でしたが実際に書くところまでを研修の中で行いました。

言葉の選び方や伝え方がとても大切だということを学びました。子どもに対して「～はしない！」「～をやめなさい！」というマイナスな言い方をするのではなく、「～しよう。」等、プラスの言い方で伝えるよう、今後、気をつけていきたいと思います。

「先生からしたら1対30。子どもからしたら1対1。」という先生の言葉を聞いて、はっとしました。毎日、授業や他の仕事に追われても、「一人ひとりの子どもの声にしっかりと耳を傾けないといけない」と。今は一日の授業をこなすことに手一杯になっていますが、少しずつ教育書を読んだり、学級活動を考えたりと視野を広げて、心にも余裕が出たらいいなと思いました。

先生にとっては1対30として子どもを見ているけど、子どもにとっては1対1として先生のことを見ていることに改めて気づきました。子どもにとってはたった一人の担任の先生だから、もっと一人ひとりとの時間を大事にしたいと考えました。

「学校」という所が子ども、家庭、地域にとってどういう場所であるのかということをもう一度考えることができました。安心、安全はもちろんだが、「楽しい、元気が出る、一日満足！」というような気持ちになってもらえる場所でありたい。そのために、教師として一時間の授業をどんなふうにつくっていけばいいのか、今日の学びをいかしてがんばっていきたいです。

採用前にあったセミナーで研修の意義について説明していただいたことを思い出しました。教師という仕事はアウトプットする機会が多く、インプットすることが少ないということ。今の自分によく当てはまっているなと思いました。どこか自分の指導や授業に思い悩んでいたのは、最近、自分が教師としての資質を向上させるような取り組みを日々の業務を言い訳にあきらめていたからではないかと痛感させられました。本を読みたい、勉強したいと思うだけで、全く実行できていなかったのも、まずは国語、算数の授業をより良くするために指導法について書かれた本を買い、研究する時間を設けます。

授業において大切なことや指導案の書き方などが少し分かりました。「なぜできないの？」ではなく、できるようにするためにはどのような工夫が必要なのかを考えて日々の授業に臨んでいこうと思います。

授業45分間を全て大事にしっかりと学習させられているか振り返った時に反省することが多かったです。1分の積み重ねが1年で大変な時間になることをしっかり頭に置いて、日々の授業を行っていこうと改めて思いました。

計画どおりに進めたいという気持ちが強すぎて、子どもたちのつぶやきを見逃してしまうこともあるかもしれません。思い通り進んだという授業も実は一部の子どもたちの意見だけで進んでいたということもよくあります。授業では、予想しない子どもの発言により一気に流れが変わることもあります。より深い学びへと導く授業を展開するには、一方的ではなく、子どもたちの反応を感じ取る大切になります。

講義では、グループ交流の時間がありました。校内では初任者が一人しかいないという先生もおられます。同じ初任者だからこそ、共感できることがあると思います。そこで、豊能地区で行う研修では内容に応じ、同じ学年や教科の先生で班を作ったり、あえて所属市町・学年・校種をバラバラにして班を作ったりと、グループ交流がより活発なものになるように考え、班編成を行っています。交流することで、自分では気づかなかったことに気づき、考えが広がり深まることを企図しています。また、次につながる原動力を創り出すものになると考えています。

同じ学年の先生が同じグループだったので、他の学校での取り組みを聞くことができ良かったです。また、学年に適した指導法等をグループ内で聞けたので、明日からでもすぐに実践できるのが良いことだなと思いました。

他の地域の先生方との交流もあり、明日から実践したくなるようなクラスでの取り組みや声かけ方法を聞くことができました。毎日の授業に追われても、子どもたちへの声かけを丁寧にしなければならないと思いました。子どもたちと1対1で向き合い、関係を築いていくことができたらと思っています。

他の先生方から「こういう授業の流れを組んだら子どもの反応が良かった！」という話を聞いて、とても参考になりました。いろいろな先生方の授業をこれからも見ていきたいと思いました。

同じ学年の先生方と話すことができ、とても勉強になりました。特に、「こんなときどうしているか。」という悩みを共有したり、それに対する効果的だった具体策を意見交換できたりして良かったです。普段は自分の学校の様子しか分かりませんが、こうやって様々な学校での実践について話を聞くことができ、今度、試してみたいと思いました。

同じ境遇である同期の方と情報交換をすることができて、ほっとすることができました。「自分だけがうまくいっていないのかな?」「他の先生だったらどうやっているのか?」など、同じ目線で話すことができました。

同じ学年の先生がどんなことをしているのか、どんなことで悩んでいるのかが分かって良かったです。他の先生方がされていることも教えてもらえて、良い刺激になりました。

辻課長の講義の後には、人事協議会塩出研修グループ長より、「学習指導要領と授業について」、手引きにもある自己成長・確認シートの記入を含め、講義しました。

今、行っている単元がこれからどうつながっていくのか、もっと意識していきます。算数は割とそのつながりが見えやすいと思うのですが、国語に関しては自分自身あいまいな部分が多いので、学習指導要領を見てはっきりさせたいです。

自己成長・確認シートで数値化してみることで、授業についてもっと考えていかなければならないことに気づくことができました。

学習指導要領を熟読するのは、研究授業や、気になった単元があった時だけでなく、積極的に読んでいくべきだと思いました。

毎日の中で、自分を見つめ直す時間をつくることは難しいと思います。初任者研修を通して振り返ることで、客観的に自分を捉え直し、前向きな気持ちになり、新しい発見を持ち帰ってほしいと思います。授業づくり自己成長・確認シートの記入は、11月の初任者研修に2回目を行います。シートについては、豊能地区教職員人事協議会のホームページにもアップもしているので、必要に応じてご活用ください。

学習指導要領について普段の授業ではあまり意識されていないかもしれませんが、全ての授業の土台となるものです。授業づくりに困ったときほど、学習指導要領に戻ると、単元のつながりなどが見え、やる事がすっきりまとまることもあります。普段から手に取れる場所に置いておき、何かあったらすぐに見るという習慣にするのもいいと思います。

講義の中で、授業を改善していくための手立てとして、他の先生の授業を見る、書籍を読む等、具体的に示してくださいました。何か1つでも試みると、そこには授業改善につながる気づきが必ずあります。焦らず日々の授業を大切に、実践を重ねていきましょう。